ウィズガスCLUB 設立記念シンポジウム 豊かで

鈴木エドワード氏
建築家。埼玉県出身、75年ハーバード大学大学院アーバンデザイン建築学修士。作品は静岡ガス清水支店・SGEE PORT（88年）、GAMO青山スタジオ（03年）など多数。

住まいは小さな感動を味わえる器

人生の夕暮れ時を迎えているせいか、最近、よく死について考える。自分が死ぬとき幸せだったと何を基準に考えればいいのか。少なくとも私の場合、それは日頃の小さな感動の積み重ねだ。1日3食おいしく食べられる、気持ちよく便が出る、気持ちよく風呂に入れる。気持ちよく寝て、目覚めて、楽しい友達と楽しい会話ができる。そんな小さな感動の積み重ねが、「ああいい人生だった」と思うのではないか。

最近は自分が扱う住宅でも小さな感動が与えられる工夫を組み込む努力をし、特にトイレや浴室に力を入れている。こういう空間だけが、1日の間で自分に戻れる場所だからだ。風呂場には半坪くらいの坪庭を隣接し、バスタブの高さに合わせて窓を設け、風呂に浸かりながら坪庭を眺められるようにしている。

水滴が葉から葉へと滑り落ちていくのを見るだけでも和むし、テントウムシが歩くのを見てもほっとする気にさせてくれる。したがって、そういう設計にこだわっているのだが、ある住宅の場合、施工会社が間違えてバスタブの上に壁を作ってしまった。20cm厚のコンクリートに穴を開けるのは大変だったが、どうしてもこれだけは譲れず窓を作った。こういうこだわりが大事だと思う。

まして住宅という環境は、自分が生活する拠点であり、世界で一番心地良い場所であるべきだ。自分の例で言うと、2年前に青山から西麻布に転居した。場所探しには6年掛かった。私と妻はアウトドアが大好きで、バルコニーテラスを単に室外機置き場や物干しとして使うのではなく、外に出て参加できるような場所を探したのだが、なかなか見つからなかった。

たまたま北側斜線の関係で、中の部屋よりも外の空間が広いペントハウスを見つけ、アウトドアテラスを改善し、それなりのガーデンテラスを作った。当初はこんなに費用を掛けていいのかとも思ったが、今では安かったと思っている。海外のリゾートに行くより、早く家に帰りたいという空間ができたからだ。

アウトドアがあることによって、我々夫婦は幸せに暮らしている。小さな感動を味わえる器は、必ずしも大きいとか、お金が掛かっているとかには関係ない。日本の暮らしの知恵、伝統のノウハウを新たな形で生かすだけで、十分快適な家づくりはできる。最近ではうちのスタッフにも全館はめ殺しの窓は作るな、と言っている。窓は開放できて通風があり、夏の日差しを遮るひさしや冬の日差しを取り入れる工夫を使うなど、昔からある日本の暮らしの知恵を新たな形、素材で生かすことを勧めている。その結果、クライアントに喜ばれるのは、私にとってもうれしいことだ。身近な、常識的なことをやるだけで、どれだけ人間が幸せになれるか。そんなことを追求している。

大江　治利氏
リクルート月刊ハウジング編集長。92年東京工業大学卒、リクルート入社。自動車雑誌の編集長を経て05年4月より月刊Goodリフォーム編集長、05年10月より現職兼務。

これからの住まいと暮らしのあり方

これからの住まいは、生産者・供給者とカスタマーをどのようにつないでいくかが重要になってくる。結論から言うと、住宅の「コト語り」を増やしていくことだと思う。「コト語り」とは当社のアルバイト情報誌「フロムエー」の造語で、「出来事を語る」ことを意味する。10〜20代前半の若年層の生活・意識を調査した際、彼らが大事にしている対象が「物」から、その「物」を通じて出合った出来事へと変化していることに着目して用いられるようになった。

物質的な豊かさ（モノ）の次には、出来事による豊かさ（コト）がやってくる。すでに自動車業界では数年前からその風潮になっており、TVCMで「モノより思い出」と訴えたミニバンがヒットするなど、機能訴求型の商品・広告は減り、感覚訴求型へと変化している。自動車は性能も一定化し、カスタマーの感度も上がっていることがその背景にある。

住宅業界では、まだそこまでマーケットは成熟していない。価格が高額なため感覚的には選びにくく、供給者側にモノ中心の発想が根強いこと、カスタマーの購入頻度も低いので経験値が育ちにくいことなどが理由として挙げられる。

経験値には育ちやすいものと育ちにくいものがある。残念ながら住文化は育ちにくいほうだ。育ちやすいものの代表は食文化やファッションで、今の30〜50代はバブル期にたくさんできたレストランや海外ブランドに触れたことで、経験値を豊かにしてきた。豊かさは後戻りしない。モノを見る目を養ったカスタマーによってマーケットは成熟する。

従来、こうした変化に敏感なのは女性だったが、昨今では「ちょいモテオヤジ」をキーワードにした某誌を筆頭に、30〜50代の男性に向けたファッション情報誌が数多く発行されている。これらの雑誌に共通しているのが、単なる「モノ情報」ではなく「コト語り」だ。コト語りによって男性カスタマーはファッションを磨いている。この動きは必ず住宅にも起こることで、月刊ハウジングでも物語とコト語りを発信し、牽引していく存在でありたいと考えている。

その際、どこに向かわせるのか。それはカスタマーの中に内在している。海外に行けば現地の文化に何らかのことを学んできたし、クールビズでネクタイを外したら気持ちよかった。こうした気付きがカスタマーそれぞれの向かう道を決めるのではないか。

住まいと暮らしを表現する言葉は「心地よい」くらいしかない。住宅において様々なコトを語っていけば、形容詞はどんどん増え、経験値の蓄積にもなるのではないか。私どもは家そのものをつくる会社でも、エネルギーを供給する会社でもないが、供給する側とカスタマーをつなぐ存在として「コト」を語ることで経験値を積んでいき、豊かな住文化を築くお役に立てればと考えている。

草野コラボ会長が挨拶
住宅連合会 和田会長も支援求める

草野会長

和田会長

櫻橋専務理事

設立記念シンポジウムでは、4団体を代表して日本ガス体エネルギー普及促進協議会（コラボ）会長の草野成郎東京ガス副社長、住宅生産団体連合会会長の和田勇積水ハウス社長が開会挨拶を行った。

草野会長は「住生活基本法の制定、省エネ法の改正を受け、『豊かで潤いのある住宅』実現のため、住宅生産団体連合会、キッチン・バス工業会、日本ガス石油機器工業会、日本ガス体エネルギー普及促進協議会がそれぞれの枠を超えて相互に協力していくことで一堂に会した。今後は様々な分野で連携した活動を展開していきたい」と挨拶。和田会長も「住まいづくりのコーディネーターとしての立場から様々な活動を通じて社会貢献、環境貢献に努めていきたい」と述べた。

シンポジウム終了時の挨拶では、日本ガス石油機器工業会専務理事の櫻橋晴雄氏が、参加者への感謝と今後の活動についての理解と支援を求めた。

約200人が参加
中上氏、三國氏の講演も

シンポジウムにはウィズガスクラブ関係者、住宅・建設業界、関係各省庁、団体などから約200人が参加。共通テーマ「豊かで潤いある住環境」について、様々な切り口による講演やパネルディスカッションに耳を傾けた。

豊田会長

多くの来賓を迎え賑わった設立記念祝賀会

パネルディスカッションに先立つ基調講演では、住環境計画研究所所長の中上英俊氏が「日本の居住環境とエネルギー」と題し、住文化と家庭用エネルギーの関わりと将来展望について述べた。また、特別講演としてオテル・ドゥ・ミクニのオーナーシェフ三國清三氏が「食育の現状と将来像」のテーマで講演。ウィズガスCLUBの社会貢献活動である食育の重要性を指摘した。

シンポジウム終了後に行われた設立記念祝賀会はキッチン・バス工業会会長の豊田洋民サンウエーブ工業会長の挨拶で開会。小平信因資源エネルギー庁長官、山本繁太郎国土交通省住宅局長のほか、山崎拓衆議院議員、甘利明衆議院議員ら多数の来賓が祝辞を述べ、和やかに歓談した。

―ウィズガスCLUB　今後の活動内容―

ウィズガスCLUBでは、住宅生産団体連合会、キッチン・バス工業会、日本ガス石油機器工業会、日本ガス体エネルギー普及促進協議会が連携し、協力して政策提言、社会貢献、環境貢献、情報発信の4つの活動を行う。

政策提言活動では、「ウィズガス住宅」の5つのコンセプト―環境ヘルシー住宅、快適・爽やか住宅、ロングライフ&フレキシブル住宅、団らん幸せ住宅、安全・安心住宅―に基づき、実現に向けた提言活動を行う。

社会貢献では、食を通じたコミュニケーションとして食育を柱に据えた。食育活動の調査研究を行い、実践につなげていく。

環境貢献では、ベターリビングが進めている「ブルー&グリーンプロジェクト」に協賛し、エコジョーズ・エコウィルによるCO_2削減とベトナムでの植林活動を応援する。

情報発信では、年1回程度のシンポジウムを開催するほか、各団体内の情報交換とメール配信等で情報の共有化を図っていく。

エコジョーズ　エコウィル ECOWILL　ウィズガス
受講者全員に「ウィズガス」ピンズプレゼント!!

「高効率ガス給湯器普及促進」セミナーのご案内

エコジョーズ・エコウィル普及に向けて
ハウスメーカー等からのアドバイスと期待

東京会場｜7月5日（水）｜13:30〜17:20｜東商ホール（千代田区丸の内3-2-2）
JR有楽町駅より徒歩5分,地下鉄日比谷駅、二重橋駅より徒歩3〜5分

事例講演（13:45〜15:50）
サブユーザー様にお聞きする
「エコジョーズ・エコウィル」お客さまへの提案と営業活動のポイント

講演1 <エコジョーズ>新築マンションでの評価と採用ポイント
三菱地所株式会社　住宅事業本部　商品企画部　副長 唐澤 眞二氏
講演2 <エコウィル>分譲住宅での導入とユーザーアプローチ
東急不動産株式会社　住宅事業本部　戸建事業部　課長 高橋 茂雄氏
講演3 <エコウィル>新築戸建てにおける価値とその提案ポイント
株式会社中央住宅　専務取締役 中内 慶太郎氏
講演4 <エコウィル>既築住宅へのリプレース提案と留意点
大阪ガスサービスショップ　株式会社ハーツ　代表取締役社長 横尾 修氏

特別講演（16:00〜17:10）
魅力的な提案営業の実践で商機を掴もう!
今求められる“顧客コミュニケーション力”
講師:福島　章氏　株式会社デイ・フォース・インタナショナル 代表取締役　「次世代営業研究会」主宰

受講料:8,400円（お1人様、消費税込み）｜定員:400名（先着順となりますのでお早めにお申し込みください）｜申込み締め切り 6月30日(金)

情報交換懇親会（17:30〜18:30）
希望者参加・・・情報交換・ネットワークづくりにご活用ください。
■参加費　3,675円（お1人様、消費税込み）
■会　場　東商スカイルーム（東京會舘）<東商ビル8階>

大阪会場｜7月7日（金）｜13:30〜17:20｜天満研修センター（大阪市北区錦町2-21）
JR天満駅より徒歩2分/地下鉄扇町駅、天神橋筋六丁目駅より徒歩7分

事例講演（13:45〜15:50）
サブユーザー様にお聞きする
「エコジョーズ・エコウィル」お客さまへの提案と営業活動のポイント

講演1 <エコジョーズ>新築住宅での評価と採用ポイント
積水ハウス株式会社　大阪マンション事業部　技術管理室　係長 須藤 晴彦氏
講演2 <エコウィル>新築戸建てにおける価値とその提案ポイント
トヨタホーム株式会社　マーケティング部　設計センター長 深田 真二氏
講演3 <エコウィル>戸建て住宅での設置とお客さま提案
株式会社勇晴建設（兵庫県神戸市）　代表取締役 須藤 登美子氏
講演4 <エコウィル>既築住宅へのリプレース提案と留意点
大阪ガスサービスショップ　株式会社ハーツ　代表取締役社長 横尾 修氏

特別講演（16:00〜17:10）
魅力的な提案営業の実践で商機を掴もう!
今求められる“顧客コミュニケーション力”
講師:福島　章氏　株式会社デイ・フォース・インタナショナル 代表取締役　「次世代営業研究会」主宰

受講料:8,400円（お1人様、消費税込み）｜定員:180名（先着順となりますのでお早めにお申し込みください）｜申込み締め切り 6月30日(金)

情報交換懇親会（17:30〜18:30）
希望者参加・・・情報交換・ネットワークづくりにご活用ください。
■参加費　3,675円（お1人様、消費税込み）
■会　場　<天満研修センター内>

特別講演／講師紹介
講師　福島　章
元気を出す営業開発コンサルタント兼ビジネスコーチ
株式会社デイ・フォース・インタナショナル　代表取締役
「次世代営業研究会」主宰
モットー「営業に元気なくして、企業に元気なし」

お申し込み　下記の申し込み書に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。
ホームページから申し込み用紙がダウンロードできます。
http//www.gas-enenews.co.jp
お申し込み後、「受講票」「会場案内」「請求書」をお送りいたします。
お問い合せ　ガスエネルギー新聞・事業部（担当/金崎）TEL:03-3592-5797

FAX:03-3592-5793
ガスエネルギー新聞 事業部 行

受講申込書（拡大コピーしてご使用ください）

ご希望会場に○をつけてください　東京会場　大阪会場

参加者ご氏名	ご所属・お役職名	懇親会
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加

連絡先
会社名
ご担当名　所属部署名
電話番号　－　－
FAX番号　－　－
ご住所　〒　－

ハロー！環境技術
エコ製品で止めよう温暖化 チーム・マイナス6%

■主催　株式会社 ガスエネルギー新聞
■後援　社団法人 日本ガス協会
■協賛　GASTAR　パーパス　CHOFU 長府製作所　NORITZ　Paloma　HONDA　Rinnai

潤いある住環境目指して

6月13日、住宅生産団体連合会、キッチン・バス工業会、日本ガス石油機器工業会、日本ガス体エネルギー普及促進協議会（コラボ）の4団体は、顧客ニーズの変化に対応し、人々の豊かで潤いのある生活を実現することを目的に「ウィズガスCLUB」を設立した。同日、東京都千代田区のホテルニューオータニで行われた設立記念シンポジウムの概要を紹介する。

パネルディスカッション　各界の有識者が意見交換

脱物質化文明の時代へ

村上　周三氏
慶應義塾大学理工学部教授、東京大学名誉教授。愛媛県出身、東京大学工学部建築学科卒。85年東京大学生産技術研究所教授、99年デンマーク工科大学客員教授。

20世紀型文明は効率を熱心に追求した結果、文明の画一化をもたらした。近年の情報技術をベースとする国際化はこれを一層加速化している。この過程で世界の多様な文化や技術の多くが消滅し、同時に多様な文化・技術がもたらしていた豊かさや潤いという恩恵も失ってきた。

近年、生物多様性の重要性は十分認識されるようになったが、文化の多様性への認識はまだ不十分である。脱物質化文明の時代において、これからの日本の住環境の構築を考えるに際しては、失われつつある文化や技術の多様性を再評価する姿勢が不可欠である。これらこそが、生活環境に豊かさや潤いを与える重要な資源になるからだ。

家庭用のエネルギー利用やそれに関わる技術に関しても同様で、近年、家庭用エネルギーを巡って「ガスか電気か」という一元論が盛んだが、「ガスも電気も」という2元論の方が、多様性を重視しており、建設的である。

人類の発展の歴史の中で、火の利用の発見の重要性はあらためて指摘するまでもない。人類の文明は火とともに発展してきた。日本に限らず、多くの伝統文化に占める火の役割は極めて大きい。それは、欧州の人たちの暖炉に対する執着、日本人が囲炉裏に寄せる郷愁などを見ても分かる。調理における火の利用は、多くの生活文化の発展と連動し、様々な伝統文化の中でも最も重要なものの1つだと考える。

近年、電磁調理器の人気が高いが、利便性を認めた上で、火を使う調理方法の重要性をあらためて認識することが必要である。調理における火の利用は、長年にわたって蓄積された火に関わる多くの貴重な伝統文化の保存につながるからだ。調理エネルギーや調理技術にも多様性を尊重する姿勢こそが健全であろう。

豊かさや潤いは人間の内面に深く関わるもので、これを顕在化、客観化することは難しい。しかし、住生活の中で豊かさや潤いを求める以上は、その概要を明らかにして、豊かさ・潤いの観点から住環境を評価することが最も効果的だと考える。

現在、国土交通省の主導の下、建物の環境性能を評価・格付けするCASBEEと呼ばれる手法が急速に普及しつつある。CASBEEでは、環境効率の理念の下で生活の質の向上と、環境負荷の削減が同時に評価され、建築分野の脱物質化が推進される。住環境の豊かさ・潤いに関わる多くの環境側面は、脱物質化を推進するツールであるCASBEEの評価の内容に含まれる。現在利用されているCASBEEは、一般の建物および集合住宅を対象としたものだが、戸建て住宅を対象としたCASBEEも開発中だ。戸建て向けCASBEEが完成した段階で、住環境の豊かさ・潤いを追求するツールとして活用されることを期待する。

住宅は「量から質」に

高井　憲司氏
国土交通省住宅局住宅生産課長。東京都出身、東京大学工学部都市工学科卒。77年建設省入省、03年国土交通省住宅局市街地建築課長を経て04年8月現職。

住宅をめぐる環境に大きな変化が起きている。1つは「住生活基本法」の制定、もう1つは「省エネ法」の改正である。

戦後の深刻な住宅難問題を解決するため、国は公庫・公団・公社の3本柱で住宅や宅地の大量供給に努めてきた。しかし、昨年あたりから日本の人口はピークに達し、世帯数も2015年ごろにピークを迎えることになるだろうという見通しが立てられている。

人口の減少や単身・2人世帯の増加など社会ニーズが多様化したため、住宅政策も既存住宅をリフォーム・流通等で活用してストック全体の質を向上する、市場機能を活用して民間による住宅・住宅資金の供給を促進するという方向に大きく舵を切ることになった。いわば、量から質へと、大きく変化したわけで、それがこのほど「住生活基本法」にまとめられた。

住生活基本法は、国民の豊かな住生活の実現を図る目的で、安全・安心で良質な住宅ストック・居住環境の形成、住宅取引の適正化と円滑な流通のための市場環境整備などの施策を講じる。「量から質へ」を実現するため、国と都道府県が「住生活基本計画」を作成することになっており、この秋には全国計画が策定される。耐震化率やバリアフリー化率、省エネ化率、住宅性能表示実施率などに成果目標を設定し、国と都道府県が活動を展開する。

4月1日から施行された「省エネ法」では、住宅・建築物分野の省エネ対策が強化された。京都議定書の発効で、日本はCO_2排出量を90年比で6%削減することが求められているが、02年度のCO_2排出量を見るとまだ増加傾向にある。分野別では産業部門が90年比マイナス1・7%となっているのに対し、民生部門が33%、運輸部門は20・4%と増加している。

住宅・建築物のエネルギー消費の用途別内訳をみると、家庭用では動力が大きな割合を占める。動力とは、コンセントから取るもの全般で、パソコンや温水トイレなどの普及とリンクして伸びている。民生部門のCO_2が増加している要因の1つとして、世帯数の伸びと生活水準の向上が挙げられるだろう。

民生部門のCO_2排出量を削減するためにも住宅・建築物分野の省エネ対策の強化は重要である。改正省エネ法では、従来2000㎡以上の建築物（非住宅）が新築・増改築する際に義務付けていた省エネ計画の届け出を、大規模修繕する際にも義務付けた。また、2000㎡以上の住宅についても新築・増改築・大規模修繕時に省エネ計画の届け出を義務付け、住宅起源のCO_2排出量の削減に努めることとした。

このほか、環境問題など住宅政策上緊急に対応すべき政策課題について、民間の先導的技術開発を支援する事業も実施している。05年度は集合住宅を対象とした「住宅用燃料電池の導入最適化に向けた技術開発」について助成を行っており、今後も継続予定である。

新しい技術と文化の融合

荒木由季子氏
経済産業省製造産業局住宅産業窯業建材課長。東京都出身、東京大学工学部都市工学科卒。83年通商産業省入省、資源エネルギー庁、科学技術庁等を経て06年1月現職。

住宅を取り巻く環境変化は大きく、消費者ニーズも高くなっている。最近では雨露をしのげればいいというスタンスから、安全・安心であること、環境やエネルギーに関すること、少子高齢化に対応した住宅、快適性の高いものといった住宅単体に関わるものから、文化や住まい方、街並み・景観など住生活に関わるものまで、求められるものが多様化している。

政策課題では地球環境問題に対応すると同時に高性能であることが求められるし、循環型社会の中でなるべく長く使っていくことも求められる。

これらを実現させる大きな要素は、1つは技術である。省エネは決して「我慢」ではなく、同じような効用が得られるのならエネルギー使用の少ないものを選ぶ、「より良いもので快適性を得る」ことである。

地球環境に対する負荷を少なくして快適性を高める。リサイクルを進める。最近の消費者は環境意識の高い人が増えている。太陽光発電も、かつてはごく一部の先進的な人が導入していたが、現在ではコストが多少かかっても「プラスアルファ」に対してお金を払う人が増えていると実感している。

我々経済産業省は、エネルギーを少なく使うことを目指して技術開発や新しい技術の普及促進を進めているが、豊かで潤いのある住環境とは何かを考えるとき、ハードだけでは回答できない部分がある。

住宅は単なるハードではなく、人々が暮らす場であり、生活そのものだ。そこで営まれる文化が次世代に受け継がれていく。真に豊かな生活を実現するには、新たな技術というハードと、生活の知恵（文化）というソフトの融合が必要である。たとえば、火を使う料理を、家庭という場の中で子どもたちに伝承していくことも、大切なことではないだろうか。

これらハードとソフトの融合―新しい技術とそれを使いこなしていく知恵が一緒になっていくことが、潤いある生活につながっていくのではないかと思っている。

今後の住宅を考えると、住宅を供給する側はハードの開発に秀でており、素晴らしい物をつくってくれるだろうが、住まい手側はどうか。どんな住まい方をするのか、どんな住宅を選択するか、具体的なイメージを持っていないのではないか。豊かで潤いのある住環境は、住まい手自身がいかに暮らしていくか、暮らしたいのかを学ぶ「住まい学」とでもいうものが必要かもしれない。これからはいいものを長く使っていくのが主流になるだろうが、ストックを生かすためにも消費者自身の意識の転換が必要だと考えている。

Gas給湯器には、意外な実力がある。

いつでもお湯がたっぷりつかえます。
排熱も無駄なく利用するので、省エネルギーです。
ご家庭で電気が作れるものもあります。
CO2の排出が少ないから、地球に優しいのです。
エネルギー効率がとても高いので、とても経済的です。
環境性が評価され、導入時に国の支援がうけられます。
豊富なラインナップから、ぴったりの一台が見つかります。
つまり、ガス給湯器を選ばれたご家庭は、ハッピーです。

ご存知でしたか? ガス給湯器のメリットは、こんなに広がっています。
例えば、排熱も無駄なく利用する〈エコジョーズ〉、電気まで作れる〈エコウィル〉。さらに、ガスならではのハイパワーを利用した床暖房や、ミストサウナなど、ガス給湯器は進化して、みなさまにあったかで豊かな暮らしをお届けしています。ガスだから出来ることは、まだまだあるはず。進化を続けるガス給湯器に、ぜひご期待ください。

エコジョーズ　水蒸気の熱を再利用する潜熱回収型給湯器
エコウィル　ガスエンジンで自家発電する給湯器

コラボ　「日本ガス体エネルギー普及促進協議会（コラボ）」
日本ガス協会、日本LPガス団体協議会、日本簡易ガス協会は一つになって、ガスの優れた環境性、安全性、ガスが創り出す新しい住宅コンセプトなど、様々な情報を発信し、提案をしていきます。【お問い合せ先】コラボ事務局　TEL 03-3502-0115

みんなで止めよう温暖化　チーム・マイナス6%

高効率給湯器導入補助金制度のお問い合わせ先

■都市ガスのお客様
■潜熱回収型給湯器補助金交付グループ　TEL:03-3502-5286
■ガスエンジン給湯器補助金交付グループ　TEL:03-3502-2469
詳しくは http://www.gas.or.jp
社団法人 日本ガス協会 プロジェクト契約部　受付時間:9:00〜17:20（月〜金）※祝日、5/1、12/29〜1/4を除く。

■LPガスのお客様
■潜熱回収型給湯器担当　TEL:03-3507-0047
■ガスエンジン給湯器担当　TEL:03-5251-3040
詳しくは http://www.lpgc.or.jp
財団法人 エルピーガス振興センター 設備助成事業室　受付時間:9:00〜17:30（月〜金）※祝日、年末年始、5/1、7/7を除く。

申請の受付は所定の様式及び添付書類が適正であるものから原則先着順とし、申し込みが予算に達した時点で締め切らせていただきます。申込み状況は、ホームページでご確認ください。